



見沼小だより

平成28年度第4号

平成28年6月30日発行

TEL 048-663-7342

学校教育目標 「仲良くする子」「元気な子」「考える子」 FAX 048-663-9887



地域の力、家庭の力

校長 大澤 淳

梅雨空のはっきりしない天気が続いておりますが、いよいよ、夏も本番を迎えようとしています。夏休みを前に、楽しみな計画を立てている家族も多いかと思えます。反面、各地から自然災害のニュースが連日報道されています。被災地の惨状に心を痛めながらも、災害に対しての備えをしなければと思えます。

先日、見沼小学校を避難場所とする地域の避難訓練が行われました。夕方5時からの訓練でしたが、各地区から大勢の人が参加されました。市役所の方の報告では、全体で300名弱の方が参加されたとのこと。訓練ですので、避難者の受付、運営本部の設置、消防署の方による煙体験や通報訓練、AED訓練などを行い、非常食として市より、あんパンと水が配付され、みんなで食べました。見沼区の避難訓練は今年で9回目だそうです。さいたま市より早い時期から取り組んでいたのも、避難場所で大切な「生活上のルール」は、見沼区のルールを手本にして、さいたま市の「生活ルール」が作られたそうです。まさに、見沼区はさいたま市の避難訓練の先駆者だったので。この地域の方の行動力、組織力に感服するとともに、見沼の子どもたちの安全を確信しました。

夏を迎え、学校ではプール指導も始まり、元気な声がプールから響いてきます。安全管理と健康管理に十分に注意し、楽しみながら水泳を学んでほしいと思っています。プール開きには、5年生と6年生の児童が事前にプール清掃を行ってくれました。前年の夏から使用されていないプールはすっかり緑色の水となり、落ち葉や土が沈んでいますが、児童たちが頑張ってくれたおかげで、すっかり綺麗なプールに蘇りました。

そしてそこには、大きな副産物がありました。掃除の途中のプールには、アメンボやタニシやトンボの幼虫のヤゴなどたくさんの生き物がいました。プールは自然のそのものの姿だったのです。6年生の先生が、たくさんのヤゴを捕まえて、理科で使う丸い水槽に入れて職員室に持ち帰りました。水槽に割り箸を立てかけて、ヤゴがいつでも羽化できるようにしました。すると翌朝、学校の職員室へ行くと、天井に1匹のトンボがいます。羽化したトンボです。水槽を見ると、割り箸を這い上がってきたヤゴが、まさに羽化しようとして割り箸にぶら下がって殻から出始めているところでした。見沼小のプールで生まれ育ったトンボの、みごとな旅立ちでした。水槽にはまだたくさんのヤゴがいたので、そのあとは子どもたちが通る廊下に水槽は置かれ、成長の様子を子どもたちは自分の目で観察することができました。

身近な所にも、まさに生きた教材があることを実感しました。さらに、これから来る夏休みでは、普段と違う場所を訪れたり、違う環境の中に飛び込んだり、普段できない体験をする機会があるかと思えます。家庭の力が発揮される時です。ぜひたくさんの経験、体験を通して嬉しいことや楽しい事、大変なことや辛いこと、いろいろな事を心で感じ取る機会を作っていただき、子どもたちの心を豊かに成長させていってほしいと願っています。